

令和3年度第2回江東区環境審議会会議録（書面開催）

1 書面開催日程 令和3年9月6日～令和3年9月13日

2 審議会委員

会長 柳憲一郎（明治大学名誉教授）
副会長 長谷川 猛（元東京都環境局理事）
委員 芦谷典子（東洋大学教授）
奥真美（東京都立大学教授）
村上公哉（芝浦工業大学教授）
市川英治（東京商工会議所江東支部副会長）
岡野俊也（東京ガス株式会社東京東支店支店長）
平岩直哉（東京電力パワーグリッド株式会社江東支社支社長）
岡本一恵（区民公募委員）
田中真司（区民公募委員）
池崎一雄（区民委員・江東区立中学校P.T.A連合会長）
米沢和裕（区議会・区民環境委員会委員長）
石川邦夫（区議会・区民環境委員会副委員長）

3 議題

【審議】

「江東区一般廃棄物処理基本計画に盛り込むべき考え方」（答申）（案）について

【報告】

令和2年度「江東区の環境白書」（案）

～江東区環境基本計画 令和2年度実績報告～

4 配付資料

資料1 江東区環境審議会委員名簿

資料2 「江東区一般廃棄物処理基本計画改定に係る当該基本計画に盛り込むべき考え方について」（答申）（案）

資料3 「江東区の環境白書」（案）

～江東区環境基本計画 令和2年度実績報告～

資料4 令和3年度第1回江東区環境審議会会議録（書面開催）（案）

参考 江東区環境基本計画 令和2年度実績報告（概要）

5 書面開催の経緯

令和3年度第2回江東区環境審議会は、新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大防止のため、会を設けての実施を取りやめ、書面での開催としました。

書面開催では、配布資料を郵送にて送付し、議題について各委員に意見書の提出を求めました。

6 結果

（1）議題について

全委員にて了承となりました。（別紙1）

（2）ご意見・ご質問について

今回の審議にあたり、5名の委員からご意見等がありました。（別紙2）

別紙 1

令和3年度第2回江東区環境審議会の議題とご意見等について

区分	氏名 (敬称略・順不同)	意見書の提出	議題の了承	ご意見等
学識経験者 (5名)		○	了	
	奥 真美	○	了	○
	副会長 長谷川 猛	○	了	○
	村上 公哉	○	了	○
	会長 柳 憲一郎	○	了	
事業者代表 (3名)		○	了	
	市川 英治	○	了	
	岡野 俊也	○	了	
住民代表 (3名)		○	了	
	岡本 一恵	○	了	○
	田中 真司	○	了	○
区議会議員 (2名)	池崎 一雄	○	了	
	米沢 和裕	○	了	
	石川 邦夫	○	了	

令和3年度第2回江東区環境審議会のご意見・ご質問（まとめ）

別紙2

No.	委員名	ご意見・ご質問	事務局回答
1	奥 委員	審議事項の「江東区一般廃棄物処理基本計画に盛り込むべき考え方」答申（案）について、全体をとおして読み返してみたところ、修正が望ましいと思われる箇所がありましたので、添付資料2にコメントを挿入して記したとおり、修正案を示させていただきます。ご検討いただければ幸いです。	答申のとおり一部修正いたしました。 (清掃リサイクル課)
2	田中 委員	答申（案）のとりまとめありがとうございます。 江東区の人口増加が続くなか、各目標達成に向けて、普及啓発の拡充や事業に対する関心を持ってもらえるよう、特に若い世代の意見・アイデアを取り入れるなど取組む必要があると思います。	12月に区報及びホームページにてパブリックコメントを実施し、区民からいただいた意見を踏まえ、江東区一般廃棄物処理基本計画を策定してまいります。 (清掃リサイクル課)
3	村上 委員	考え方4頁に区民一人当たり642gや471gの数値が記載されています。その後段で新型コロナ感染症により、テレワーク等、自宅で過ごす時間が増したために区民一人当たりの区収集ごみが増加した考察されています。 これは、環境白書の12頁や33頁の実績値の推移、例えば区民一人当たりの1日後ごみ量は467g（H30年度）から471g（R元年度）への増加推移からでしょうか。 自宅で過ごす時間が増えることによるごみの排出量の増加は興味深いです。もし、速報値でR2年度のデータがあれば新型コロナ感染症の影響がもっと明確かと思います。R2年度のデータがあれば教えてください。	令和2年度の区民1人あたり1日の区収集ごみ量は速報値480gで前年度比+9gとなっています。令和3年度の区収集燃やすごみ量・燃やさないごみ量・粗大ごみ量は、8月時点で全て前年度比減の傾向にあり、燃やすごみについては、月別でコロナ禍前と比べた前々年度比でも減になる月があります。このため、コロナ禍がごみ量に及ぼす影響を注視し、目標値の設定を検討してまいります。 (清掃リサイクル課)
4	長谷川 委員	(1) 江東区一般廃棄物処理基本計画に盛り込むべき考え方 23区の場合、厨芥の処理には、下記のとおりの問題点があり、江東区が課題解決に貢献できると考える。今後、区として積極的に動けそうか否かを検討し、動けそうなら、何らかの形で計画に入れたらどうか。現在、23区1組では、可燃物の処理は全て焼却に頼っている。しかし、可燃ごみ中には焼却に不適な厨芥が含まれている。厨芥は、食品ロスの削減を推進しても、減量は期待できるが、調理屑などもあり無くならないと考える。厨芥の処理は、エネルギーの有効利用という点からみれば、メタン発酵処理が適していると考える。このため、区として、23区1組に対し、今後、清掃工場等の建替えの機会をとらえ、焼却処理施設に加え、メタン発酵施設の併設を検討すべきと提案したらどうか。また、検討の一環として、立地条件の良い、江東清掃工場に試験施設を設置することも提案し、その際は、厨芥の分別収集と試験施設への搬入は、江東区が全面的に協力する旨、申し出たらどうか。 (2) 江東区環境基本計画に入るべき事項 江東区環境基本計画では、5-5 災害に強いまちづくりの推進で“透水性舗装道路の整備”を記載している。一方、近年、遮熱性舗装が注目されてきているが、遮熱性舗装の中には、“低騒音・排水透水機能との両立が可能な舗装”が存在し、整備を進めている自治体もある。区としても、その実態を調査し、両立が出来、価格に大差がないなら、“透水性+遮熱性”、“かつ低騒音の舗装整備に切换え、“柱4 環境に配慮した快適なまちづくりの推進 “に遮熱対策等を入れたらどうか。	(1) 厨芥は、燃やすごみのうち約40%を占めています。厨芥ごみ減量のためには、ごみとなるものの発生を抑制すること（食品ロス削減）が最も優先されるべきだと考えます。それでも発生してしまった厨芥の処理については、現状は清掃工場で焼却しており、清掃工場にメタン発酵施設を併設することで、エネルギーの有効利用を図ますが、焼却設備と比べ1.4倍の敷地面積が必要と言われております。いただいたご意見は、新江東清掃工場等の建替え時の検討課題として清掃一組に提言いたします。 (清掃リサイクル課) (2) 現在、本区では、歩道で透水性舗装、車道で低騒音（排水性）舗装を整備しております。また、歩道の透水性舗装への遮熱性の追加については、本区においても、平成29年度～31年度の3か年で、主にオリンピック・パラリンピック大会会場の周辺道路における暑さ対策として施工実績があり、技術的な課題はないものと考えています。車道の低騒音（排水性）舗装への遮熱性の追加についても、試験施工の実績はあり、技術的な考え方については歩道と同様です。 一方、道路課において、遮熱性舗装の整備費用、整備後の耐久性、温度測定による低減効果や維持管理費用等の検証を重ねてまいりました。その結果、現在、本区として車道及び歩道への遮熱性舗装の整備は行わないものとしています。 今後は、透水性・低騒音（排水性）舗装の整備を継続するとともに、環境対策型舗装の技術革新等を注視してまいります。 (道路課)
5	岡本 委員	資料2の5頁(3)SDGs脱炭素社会を踏まえたリサイクル事業文中に「未来のこどもたちが平和で豊かな生活を送れるよう…」とあります。地球温暖化の現状は、はるかに深刻で人類の生存が危ぶまれとさえしさやかれています。今は高い理想を掲げるのではなく可能な限りあらゆる手段に取り組んでいく時だと思います。住民代表委員として家庭ごみ問題の多くは正しい情報が共有されていないことが起因と考えています。普及啓発を一層広めていただきたいと思います。	区では、5 Rによるごみ減量の取り組みやごみの適正処理について、区民に身近に感じてもらえるように、区報やホームページを活用して積極的に発信しております。近年では、スマートフォン向け「資源・ごみ分別アソブリ」や区公式フェイスブック、ツイッターなども活用しております。 この他にも、資源・ごみの分別方法やごみ問題についての理解を含めてもらうためのリサイクル講座、出前講座や清掃関連施設見学会を実施しておりましたが、現在は新型コロナウイルス感染拡大のために中止しております。同じく区民まつりや環境フェアが中止となつたため、イベントを活用した情報発信もできておりませんが、区民への啓発は、ごみ問題を自分ごととして捉えてもらうための肝の部分ですので、コロナ禍においても有効な情報発信について引き続き検討してまいります。 (清掃リサイクル課)